

新変額
個人年金保険
無配当

リズナブル

REASONABLE

新変額個人年金保険(無配当)<特別勘定グループ(TG型)>

月次運用実績レポート

2012年8月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型(TG)	インデックスファンド225	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型(TG)	フィデリティ・日本成長株・ファンド VA3(適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
世界株式型(TG)	アムンディ・世界好配当株式VA (適格機関投資家専用)	アムンディ・ジャパン株式会社
新興成長国株式型(TG)	JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
中国株式型(TG)	HSBCチャイナ ファンドVAⅡ号 (適格機関投資家専用)	HSBC投信株式会社
世界債券型(TG)	グローバル・ソブリン・オープンVA (適格機関投資家専用)	国際投信投資顧問株式会社
海外リート型(TG)	ノムラ海外REIT インデックス・ ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型(TG)	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

<引受保険会社>

<募集代理店>

株式会社 但馬銀行

 但馬銀行

 0120-164-230

たんぎん相談ダイヤル
受付時間 / 9:00~19:00
(土・日・祝日のほか、1月1日~3日、12月31日は除く)

 **アクサ生命保険株式会社**
redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL 0120-833-399
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

特別勘定名称

日本株インデックス型(TG)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(04/09)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株インデックス型(TG)	1.55%	3.21%	▲8.68%	▲0.94%	▲15.05%	▲21.34%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.5%
投資信託	96.5%
合計	100.0%

【参考】日本株インデックス型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225 (運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	3年
インデックスファンド225	1.71%	3.55%	▲8.31%	0.26%	▲12.32%
日経225	1.67%	3.48%	▲9.08%	▲1.29%	▲15.75%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

<国内株式組入上位5業種>

順位	業種	比率
1	電気機器	19.1%
2	小売業	11.1%
3	情報・通信業	10.1%
4	医薬品	7.6%
5	輸送用機器	6.7%

<資産構成比率>

株式	100.0%
うち先物	1.4%
現金その他	1.4%

※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を、「株式組入上位5業種」の比率は組入株式の評価額の合計を、それぞれ100%として計算したものです。

※「資産構成比率」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

<国内株式組入上位10銘柄>(銘柄数 225銘柄)

順位	銘柄	業種	比率
1	ファーストリテイリング	小売業	8.25%
2	ファナック	電気機器	5.78%
3	ソフトバンク	情報・通信業	4.32%
4	京セラ	電気機器	3.03%
5	KDDI	情報・通信業	2.53%
6	本田技研工業	輸送用機器	2.23%
7	信越化学工業	化学	1.89%
8	セコム	サービス業	1.79%
9	キヤノン	電気機器	1.76%
10	アステラス製薬	医薬品	1.72%

※「株式組入上位10銘柄」「株式組入上位5業種」はマザーファンドの状況です。業種は東証33業種分類によるものです。

<運用コメント>

8月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比プラス1.67%となりました。

初旬は中国の景気減速懸念の高まりなど世界経済の先行き不透明感などから軟調でしたが、その後、米国で市場予想を上回る内容の経済指標の発表が相次いだことや、米連邦準備制度理事会(FRB)による追加金融緩和期待、欧州中央銀行(ECB)による高債務国の国債購入計画を受けた欧州債務問題の収束期待などから上げ幅を広げました。しかし、月末にかけては、重要な経済指標の発表や会合が予定されていることなどから様子見気分が強く、低調な商いのなか上げ幅を縮めました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本株アクティブ型(TG)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株アクティブ型(TG)	0.19%	3.46%	▲10.16%	▲3.56%	▲18.90%	▲29.55%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.8%
投資信託	96.2%
合計	100.0%

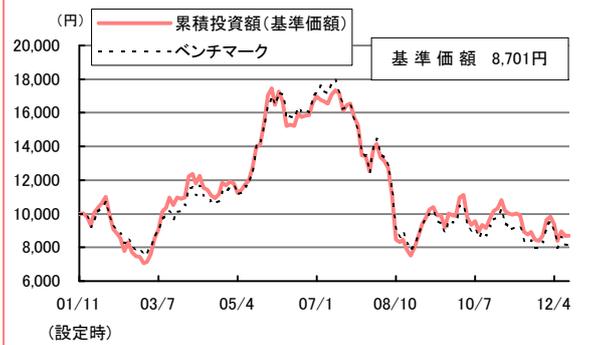
【参考】日本株アクティブ型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行います。

設定来の運用実績 (2012年8月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。

<運用コメント>

8月の東京株式市場は、月末にかけて値を崩し、月中の上昇幅を維持できずに終わりました。欧州中央銀行(ECB)理事会にて発表された南欧支援策が実現性に欠ける内容となり、欧米株が下落したことから、月初めの日本株も小幅安となりました。しかし、先に発表されていた米連邦準備制度理事会(FRB)の追加金融緩和見送りを受けて、円の先高感が薄らぐ中、7月米非農業部門雇用者数が市場予想を上振れると、日本株は反発に転じました。世界的な金融緩和への期待感などを支えに日本株は続伸、各種マクロ経済指標の改善を受けて米景気の減速懸念が和らぐと、一段高となりました。月末にかけては、債務危機の解決に向けた欧州各国首脳の間談やFRB議長の話演など、重要日程を控えて投資家の様子見姿勢が強まる中、中国経済の減速懸念や7月鉱工業生産の予想外の下振れなどから、日本株は反落して月末を迎えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が▲0.59%、日経平均株価は+1.67%となりました。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

<資産別組入状況>

株式	96.7%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	0.3%
現金・その他※	3.1%

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」(2.9%)を含みます。

未払金等の発生により、「現金・その他」の数値が「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」の数値を下回ることがあります。

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

<市場別組入状況>

東証1部	88.3%
東証2部	0.1%
ジャスダック	1.1%
その他市場	7.5%

<組入上位5業種>

輸送用機器	11.1%
電気機器	11.0%
卸売業	9.0%
銀行業	7.5%
機械	6.7%

(対純資産総額比率)

(組入銘柄数: 208) 上位10銘柄合計 25.9% (対純資産総額比率)

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」は、組入上位10銘柄の対象から除いています。

商品概要	
形態	追加型投信/国内/株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年11月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2012年8月31日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.30%	3.82%	▲9.82%	▲2.36%	▲16.44%	▲12.99%
ベンチマーク	▲0.59%	1.87%	▲11.39%	▲2.76%	▲19.33%	▲18.36%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ベンチマーク: TOPIX(配当金込)

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)	
第6期(2007.11.30)	0円
第7期(2008.12.01)	0円
第8期(2009.11.30)	0円
第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円

純資産総額 603.0億円 (2012年8月31日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2012年7月31日現在)

	銘柄	業種	比率
1	ミスミグループ本社	卸売業	3.5%
2	オリックス	その他金融業	3.2%
3	トヨタ自動車	輸送用機器	3.0%
4	本田技研工業	輸送用機器	2.8%
5	日東電工	化学	2.5%
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.4%
7	クボタ	機械	2.4%
8	シマノ	輸送用機器	2.1%
9	日産自動車	輸送用機器	2.0%
10	大和工業	鉄鋼	2.0%

(組入銘柄数: 208) 上位10銘柄合計 25.9% (対純資産総額比率)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

世界株式型(TG)

運用方針

日本を含む世界各国の高い配当利回りが期待できる企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
世界株式型(TG)	1.74%	9.83%	▲0.10%	9.64%	5.78%	▲24.74%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.3%
投資信託	96.7%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。
 ※世界株式型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

【参考】世界株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

アムンディ・世界好配当株式VA(適格機関投資家専用)

(運用会社:アムンディ・ジャパン株式会社)

<基準価額の騰落率>(課税前分配金再投資換算基準価額)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
アムンディ・世界好配当株式VA	1.90%	10.43%	0.60%	11.43%	10.15%	▲18.47%
MSCI コクサイインデックス(円換算ベース)	2.31%	8.38%	▲2.48%	13.54%	9.88%	▲23.17%
差異	▲0.41%	2.05%	3.08%	▲2.11%	0.27%	4.70%

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。
 ※基準価額は信託報酬控除後のものです。
 ※「課税前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金をその分配を行う日に金額再投資したと仮定して算出したものであり、委託会社が公表している基準価額とは異なることがあります。
 ※MSCIコクサイインデックスは前日の指数値(米ドルベース・クロス配当再投資)を委託会社が当日の三菱東京UFJ銀行の対顧客電信売買相場仲値を用いて円換算したものを使用しております。

<株式組入上位10銘柄>

(組入銘柄数: 93)

順位	銘柄	ウェイト	配当利回り	業種	国
1	オーストラリア&ニュージーランド銀行	3.1%	6.0%	金融	オーストラリア
2	ウェストバンク銀行	3.1%	6.8%	金融	オーストラリア
3	ユニリーバ	2.2%	3.6%	生活必需品	オランダ
4	スタイル	2.0%	4.5%	その他	ノルウェー
5	ザノフィ	2.0%	4.3%	ヘルスケア	フランス
6	ファイザー製薬	2.0%	3.9%	ヘルスケア	米国
7	グラクソ・スミスクライン	1.9%	5.4%	ヘルスケア	英国
8	メルク	1.9%	4.0%	ヘルスケア	米国
9	パワー・アセット・ホールディングス	1.8%	3.8%	公益	香港
10	エニ	1.7%	6.2%	その他	イタリア

※ウェイトは、マザーファンドの純資産総額に対する割合を表示しています。また、業種分類は、委託会社が独自に定めた分類方法で表示しております。
 ※配当利回りは、ブルームバーグのデータを基にアムンディ・ジャパン株式会社が各銘柄の当会計年度の予想DPSを基準日の株価で割って算出しております。

<純資産構成比率>

株式合計	98.2%
現金+現先+その他	1.8%
合計	100%

※比率はマザーファンドの内容です。

<組入地域配分比率>

地域	ウェイト
北米	24.2%
ユーロ圏	24.1%
その他欧州	25.2%
アジア・オセアニア	24.7%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<組入業種配分比率>

業種	ウェイト
公益	25.7%
生活必需品	18.8%
ヘルスケア	16.7%
金融	18.4%
電気通信サービス	9.2%
その他	9.2%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<株式組入上位5業種>

業種	ウェイト
1 公益事業	25.7%
2 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	14.6%
3 食品・飲料・タバコ	14.0%
4 銀行	13.4%
5 電気通信サービス	9.2%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<運用コメント>

<投資環境と運用状況>

アメリカでは7月の雇用が拡大し、消費や住宅関連にも改善する指標が見られました。しかし、欧州や日本、中国では投資や消費が低調に推移しました。主要中央銀行は8月に動きを示さなかったものの、下旬には追加緩和を期待する思惑が広がりました。アメリカ国債利回りドル/円相場は、アメリカの景気指標改善に反応し、中旬にかけて利回り上昇とドル高が進行しましたが下旬には反転、いずれも月初水準近くまで押し戻されました。ユーロは、欧州首脳会議の動きが引き続き鍵となっており、楽観的な動きが徐々に強まり、対円で月初から3%近く上昇しました。一方、豪ドルは中国経済の鈍化で中旬以降下落、対円1%あまり下落しました。世界株式は月初を3%上回る水準まで続伸したものの、3月の高値を目前に下旬には小反落となり、月間では1.3%の上昇でした。地域別に見るとユーロ圏とアジア・オセアニアが2%前後の上昇、北米は世界平均並み、その他欧州は素材や資本財などが反落して1%に満たない上昇でした。業種別では、日米銘柄中心に情報技術が4%を越す上昇、一般消費財と金融も2%台の上昇でした。公益はユーロ圏やアジア・オセアニアで反発の一方、北米で大きく反落し、全体として唯一の下落業種となりました。生活必需品、ヘルスケア、通信、その他の業種はいずれも1%に満たない上昇でした。

<今後の運用方針>

ユーロ圏では、欧州中央銀行などの危機封じ込め姿勢強化で時間を稼ぐことはできましたが、引き続き構造的な問題解消に注力する必要があります。アメリカでは、過去の減税措置の失効や歳出削減が懸念材料です。中国経済にも減速感が強まっています。適切な政策が施行されれば、世界経済の成長維持は可能と見られ、過度に弱気になる必要はないと考えますが、政策頼りの脆弱な状況には要注意です。株価水準は上昇が加速するほどの割安感はないものの、企業の財務内容は短期的な混乱に耐えられるだけの健全さを維持しており、魅力的な配当収入を享受しつつ、緩やかな景気成長軌道を反映する形で水準訂正が徐々に進展するものと考えています。当ファンドは、予想配当利回りが高く、また、循環的要因によらない質の高い利益成長を持続できる銘柄を中心としたポートフォリオ運用によって、安定的な収益源を確保します。業種配分においては、高水準かつ比較的安定的な配当支払いが見込める公益、ヘルスケア、生活必需品、金融といった業種中心のポートフォリオを維持し、地域別には4地域への均等配分を為替変動リスクを分散します。当ファンドの組入銘柄は、低金利が長期化する環境下で、高水準の配当を持続していることが評価されると見込んでいますが、株価変動に応じた組入比率の調整による収益機会も追求します。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

新興成長国株式型(TG)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。
 ※新興成長国株式型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
新興成長国株式型(TG)	▲0.01%	7.40%	▲13.89%	▲0.67%	4.54%	6.84%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.7%
投資信託	97.3%
合計	100.0%

【参考】 新興成長国株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

JPM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

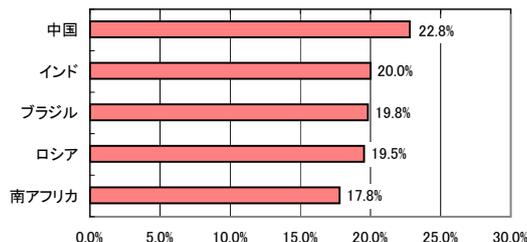
(運用会社:JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
JPM・BRICS5・ファンド	0.1%	7.9%	▲13.7%	0.4%	8.1%	31.8%

※騰落率については、基準価額に税引前分配金を再投資して計算しております。
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

<国別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入価証券を100%として計算しております。
 ※国別については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。
 ※中国の構成比率にはMSCI分類における香港を含みます。

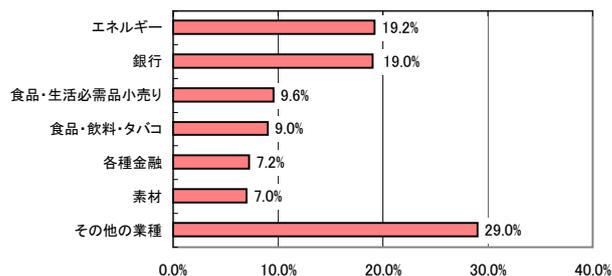
<株式組入上位10銘柄>

(銘柄数 53銘柄)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	ルクオイル(ADR)	ロシア	エネルギー	5.10%
2	HDFC	インド	銀行	3.94%
3	ショップライト・ホールディングス	南アフリカ	食品・生活必需品小売り	3.46%
4	タイガーブランズ	南アフリカ	食品・飲料・タバコ	3.12%
5	タネフチ(ADR)	ロシア	エネルギー	2.78%
6	ズベルバンク	ロシア	銀行	2.70%
7	中国海外発展	中国	不動産	2.52%
8	ミナスジェライス電力	ブラジル	公益事業	2.40%
9	マグニ(GDR)	ロシア	食品・生活必需品小売り	2.38%
10	中国石油天然気	中国	エネルギー	2.35%

※マザーファンド・ベース
 ※組入上位10銘柄については、開示基準日とその他の情報と異なります。
 ※比率は対純資産で計算しています。
 ※国、業種については、MSCI24分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

<業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入価証券を100%として計算しております。
 ※業種については、MSCI24分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

<運用コメント>

市場概況

当月の新興国株式市場は下落しました。月前半は、米国の雇用統計が事前予想を上回る内容となったことや欧米当局による追加的な緩和策への期待感などから上昇したものの、月後半は、中国企業の業績悪化が中国株の足を引っ張ったことなどを背景に軟調に推移しました。

運用状況

- ・当ファンドの月末基準価額は11,437円、前月比+0.1%となりました。
- ・当月は株価要因がプラスとなる一方で、為替要因はマイナスとなりました。
- ・組入価証券に対する国別の投資比率は、中国が20%を上回る比率となりました。一方で南アフリカ、ロシア、ブラジルは20%を下回る比率となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

中国株式型(TG)

運用方針

中国の証券取引所に上場されている企業の株式や中国経済の発展と成長に係わる企業の株式等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
中国株式型(TG)	▲1.81%	▲2.23%	▲16.50%	▲10.10%	▲24.98%	23.03%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.7%
投資信託	96.3%
合計	100.0%

【参考】中国株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

HSBCチャイナファンドVAⅡ号(適格機関投資家専用)

(運用会社:HSBC投信株式会社)

HSBCチャイナファンドVAⅡ基準価額の推移(設定来)



※基準価額は信託報酬控除後のものです。

H株とレッドチップの推移(2004年10月4日を100として指数化)



上海B株と深センB株の推移(2004年9月30日を100として指数化)



※設定日の2004年10月4日は中国本土市場では国慶節の休場日であったことから前営業日の2004年9月30日を100として指数化しています。

為替の推移(香港ドル/円)

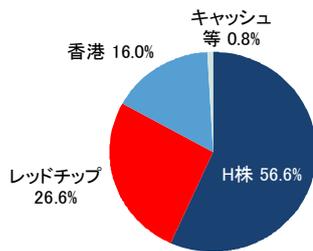


出所:為替レートは投資信託協会、株価指数はブルームバーグ

業種別組入れ比率

業種名称	比率
銀行	27.1%
エネルギー	17.7%
保険	11.5%
電気通信サービス	10.0%
不動産	8.2%
ソフトウェア・サービス	5.3%
資本財	5.0%
素材	4.1%
消費者サービス	3.2%
自動車・自動車部品	2.8%
公益事業	2.6%
小売	1.0%
その他	0.8%
キャッシュ等	0.8%
合計	100%

市場別組入れ比率



※親信託財産の構成(対純資産総額)

<運用コメント>

【8月の株式市場:景気減速、企業業績悪化を背景に軟調】

中国株式市場は軟調に推移し、香港市場ではH株指数が前月末比-4.1%、レッドチップ指数が同-0.8%となりました。7月の米国雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想を大幅に上回ったことにより、月初は株価は一旦上昇しました。しかし、中旬以降は、中国の7月の主要経済指標で景気回復の兆しが窺われなかったことを受けて下げに転じました。主要企業の2012年上半年決算では、素材、資本財、エネルギーの純利益が市場見通しを下回りました。

【運用状況】

当ファンドの基準価額の騰落率は、-1.8%(基準日ベース)と、参考指標のMSCIチャイナ10/40の-0.6%(円ベース)を下回りました。セクター別では、参考指標との対比で一般消費財をオーバーウェイトとしていたことがプラス寄与した一方、金融をオーバーウェイトとし、生活必需品をアンダーウェイトとしていたことがマイナス寄与しました。一方、為替は、香港ドルの対円相場は10.08円から10.13円と、0.5%の香港ドル高/円安方向に振れ、プラス要因でした。

【経済状況:成長モメンタムは弱い】

8月の製造業購買担当者指数(PMI)が49.2と9ヶ月振りの低水準となったことは株価の下げ要因となりました。PMIの悪化は関連性のある構成5項目によるものであり、中国経済の成長モメンタムが非常に弱いことを示唆しました。地方政府は相次いで大規模な投資計画(天津市と重慶市が各々1兆5,000億元規模、広東省が1兆元規模)を発表しましたが、投資家は財源につき懸念したことから、センチメントを改善することは出来ませんでした。

【企業収益:依然として低迷、一段と悪化する可能性】

その一方、主要企業の純利益は、2012年上半年が前年同期比+2%(MSCIチャイナ指数ベース)、4-6月期が同+2%(CSI300指数ベース)と低い伸びに止まるなど、市場見通しを下回りました。純利益が市場見通しを下回った主な要因は、粗利の低下および固定費の割合が上昇したことによるものです。主要企業の7-9月期の純利益は一段と悪化する可能性があり、また工業企業の利益(金融以外のセクターの先行指標)が依然として低迷していることを踏まえると、業績が底打ちしたと言うのは時期尚早と当社では見えています。2012年の純利益の伸び率の市場見通しがこの一ヶ月間に、前年比+6%から同+2%に下方修正された一方、2013年見通しが同+10~11%に据え置かれており、この先、景気が引き続き弱含みで推移した場合、12ヶ月予想ベースでさらに下方修正される可能性があることを示唆しています。

【株式市場:当面は値動きの荒い展開、景気底打ち待ち】

中国株式市場は、景気回復の兆しが見られないことや、この先指導部の交代時期にあたる10~11月までは政策不在が予想されることから、当面は値動きの荒い展開が続くと見えています。株式市場は2012年1-3月期以降、景気底打ち待ちの状態が続いており、底打ちが7-9月期なのか、或いは2013年1-3月期になるのかなど市場の見方は分かれています。米国の量的緩和第3弾(QE3)に対する期待は或る程度はセンチメントの改善に寄与する可能性があるものの、株価が本格的に上昇するには、明確な政策支援、確実な需要回復の兆し、さらに欧州債務危機の着実な解決策が揃うことが必要と当社では見えています。

※ 将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

世界債券型(TG)

運用方針

日本を含む世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、シティグループ世界国債インデックス(含む日本/円ベース)を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(04/09)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
世界債券型(TG)	0.77%	2.29%	▲2.03%	0.39%	▲8.37%	▲5.81%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	1.5%
投資信託	98.5%
合計	100.0%

【参考】世界債券型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

グローバル・ソブリン・オープンVA(適格機関投資家専用)

(運用会社: 国際投信投資顧問株式会社)

<基準価額の騰落率> (課税前前分配金再投資換算基準価額)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバル・ソブリン・オープンVA	0.9%	2.7%	▲1.5%	1.7%	▲5.1%	16.7%
シティグループ世界国債インデックス	1.1%	1.2%	▲1.5%	1.7%	▲3.9%	21.6%
差異	▲0.2%	1.5%	▲0.0%	▲0.0%	▲1.2%	▲4.9%

<純資産構成比率>

債券合計	99.3%
現金+現先+その他	0.7%
合計	100.0%

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。
 ※基準価額は信託報酬控除後のものです。
 ※「課税前前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、委託会社が公表している基準価額とは異なります。
 ※ベンチマークは基準価額との関連を考慮して、前営業日の値を用いています。
 ※シティグループ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクの開発したものです。

<債券組入上位10銘柄>

銘柄	ウェイト	通貨	残存年数
(1) アメリカ国債	5.8%	USドル	6.7
(2) アメリカ国債	4.0%	USドル	4.7
(3) カナダ国債	3.8%	カナダドル	16.8
(4) カナダ国債	3.5%	カナダドル	20.8
(5) アメリカ国債	3.3%	USドル	9.2
(6) オーストラリア国債	2.5%	豪ドル	8.7
(7) 欧州投資銀行(EIB)	2.5%	豪ドル	6.9
(8) アメリカ国債	2.4%	USドル	8.0
(9) イギリス国債	2.4%	英ポンド	16.3
(10) カナダ国債	2.2%	カナダドル	1.8

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<組入通貨配分比率>

通貨	ウェイト
USドル	36.7%
ユーロ	10.7%
英ポンド	3.4%
日本円	10.1%
その他	39.2%

<運用コメント>

<投資環境と運用状況>

8月の債券市場では、米国で7月の雇用統計など一部の経済指標が市場予想を上回ったことなどから、米国債の利回りが上昇しました。また、為替市場では、欧州中銀(ECB)による政策対応への期待などから、ユーロなどの欧州通貨が円や米ドルに対して上昇する一方、主要貿易相手国である中国の景気に対する懸念などから、豪ドルが主要国通貨に対して下落しました。当ファンドは、デレージョンについてはベンチマークに対してほぼ中立としました。国別配分については、米国、オーストラリア、カナダ、ノルウェーおよびスウェーデンをオーバーウェイトとする一方、ユーロ圏をアンダーウェイトとしました。

<今後の運用方針>

デレージョンについては、追加の金融緩和が見込まれる米国などでベンチマークに対して長めを維持するものの、ポートフォリオ全体ではほぼ中立とする方針です。国別配分については、長期的には、相対的にファンダメンタルズが良好な豪ドルやカナダドル、北欧通貨が主要国通貨に対して上昇するとみているものの、短期的には、市場参加者のリスク回避姿勢の強まりから米ドルや円が相対的に上昇する可能性があるかとみており、市場動向に応じて機動的に対応していきたいと考えています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外リート型(TG)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
海外リート型(TG)	0.32%	8.85%	6.31%	16.72%	32.06%	▲32.59%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	5.0%
投資信託	95.0%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をもとに「100」として指数化したものです。
 ※海外リート型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

【参考】海外リート型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ムラ海外REITインデックス・ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
ムラ海外REITインデックスファンドVA	0.4%	9.5%	7.3%	19.3%	▲27.3%
ベンチマーク	0.6%	9.8%	7.9%	20.2%	▲23.7%

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」はスタンダード&プアーズファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。
 ※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)はS&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、ドルベース)を委託会社において円換算したものです。

<資産別配分比率>

資産種別	純資産比
REIT(リート)	99.6%
その他の資産	0.4%
合計(※)	100.0%

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。
 ※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出してしております。

<実質通貨配分>

通貨	純資産比
日本・円	0.1%
外貨計	99.9%
アメリカ・ドル	66.6%
ユーロ	6.8%
イギリス・ポンド	5.8%
その他の外貨	20.8%

※実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

<国・地域別配分>

国・地域	純資産比
アメリカ	66.6%
オーストラリア	11.6%
イギリス	5.8%
フランス	4.8%
シンガポール	3.7%
その他の国・地域	7.4%
合計	100.0%

<組入上位10銘柄>

	銘柄	国・地域	純資産比
1	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	7.2%
2	WESTFIELD GROUP	オーストラリア	3.2%
3	PUBLIC STORAGE	アメリカ	3.1%
4	HCP INC	アメリカ	2.9%
5	VENTAS INC	アメリカ	2.8%
6	UNIBAIL RODAMCO SE	フランス	2.8%
7	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	2.7%
8	BOSTON PROPERTIES	アメリカ	2.5%
9	PROLOGIS INC	アメリカ	2.4%
10	VORNADO REALTY TRUST	アメリカ	2.3%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出してしております。
 ※国・地域は原則発行国・地域で区分してしております。

<市場コメント>

●米住宅市場底入れ期待や欧米における追加金融緩和期待の高まりなどを背景に、外国リート市場は上昇しました。日米長期金利差が拡大したことや、欧州中央銀行(ECB)による欧州債務問題対応策への期待の高まりなどを受け、主要通貨は対円で上昇(円安)しました。

(野村アセットマネジメント作成)

<純資産総額>

純資産総額 17.9 億円

<組入銘柄数>

組入銘柄数 231 銘柄

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

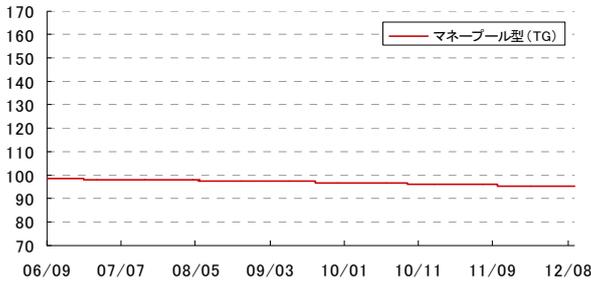
特別勘定名称

マネープール型(TG)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
マネープール型(TG)	▲0.06%	▲0.18%	▲0.34%	▲0.68%	▲1.99%	▲4.90%

特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	8.2%
投資信託	91.8%
合計	100.0%

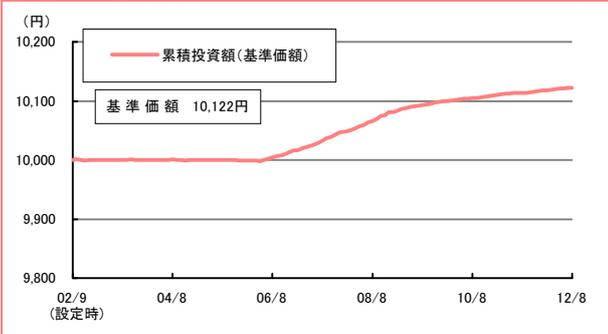
【参考】マネープール型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を
主要な投資対象とし、安定した収益の確保を
図ることを目的として運用を行います。

設定来の運用実績 (2012年8月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの
収益分配金を再投資した実績評価額です。
ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

商品概要	
形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2012年8月31日現在)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.00%	0.01%	0.04%	0.08%	0.29%	1.22%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)	
第6期(2007.11.30)	0円
第7期(2008.12.01)	0円
第8期(2009.11.30)	0円
第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円

純資産総額 145.7 億円 (2012年8月31日現在)

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース) (2012年7月31日現在)

<資産別組入状況>

債券	88.6%
CP	-
CD	-
現金・その他	11.4%

<組入資産格付内訳>

AAA/Aaa	-
AA/Aa	88.6%
A	-
現金・その他	11.4%

平均残存日数 41.97日

平均残存年数 0.11年 (対純資産総額比率)

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2012年7月31日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	第281回 国庫短期証券 2012/08/20	債券	AA/Aa	14.3%
2	第283回 国庫短期証券 2012/08/27	債券	AA/Aa	11.4%
3	第284回 国庫短期証券 2012/09/03	債券	AA/Aa	11.4%
4	第279回 国庫短期証券 2012/08/13	債券	AA/Aa	8.6%
5	第286回 国庫短期証券 2012/09/10	債券	AA/Aa	8.6%
6	第298回 国庫短期証券 2012/10/29	債券	AA/Aa	8.6%
7	第277回 国庫短期証券 2012/08/06	債券	AA/Aa	5.7%
8	第292回 国庫短期証券 2012/10/09	債券	AA/Aa	5.7%
9	第294回 国庫短期証券 2012/10/15	債券	AA/Aa	5.7%
10	第296回 国庫短期証券 2012/10/22	債券	AA/Aa	5.7%

(組入銘柄数: 11) 上位10銘柄合計 85.7% (対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用(※))/365日 を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、運用実績が 年率1.5%を超過 した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(TG) 年率0.546%程度
	日本株アクティブ型(TG) 年率0.924%程度
	世界株式型(TG) 年率0.8085%程度
	新興成長国株式型(TG) 年率1.155%程度
	中国株式型(TG) 年率1.176%程度
	世界債券型(TG) 年率0.8925%程度
	海外リート型(TG) 年率0.42%程度
マネープール型(TG) 年率0.008925%~0.525%程度	

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「リズナブル」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「リズナブル」には「特別勘定グループ(TG型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TG型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TG型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「リズナブル」は現在販売していません。